

江別市小中一貫教育基本方針(案)に対する市民意見募集結果と市の考え方

1 意見募集の結果

- (1) 意見募集期間 令和2年9月1日(火)から9月30日(水)まで
- (2) 方針(案)配置場所 本庁舎1階情報公開コーナー、大麻出張所、水道庁舎証明交付窓口、情報図書館、市民会館、各公民館、野幌鉄南地区センター、豊幌地区センター、市民交流施設ぷらっと、総合社会福祉センター、教育委員会学校教育課(教育庁舎2階) 計13か所
- (3) 提出いただいた意見 提出者数： 6人
意見数 : 10件

2 江別市小中一貫教育基本方針(案)に対する意見概要と市の考え方

(1) 考え方の区分

取扱区分	意見の反映状況	件数
A	意見を受け入れて案を修正するもの	0件
B	案は修正しないが、今後の進め方等において積極的に参考とするもの	8件
C	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの	2件
D	これまでも取り組んできているもの	0件
E	案に取り入れなかったもの	0件

(2) ご意見の内容と市の考え方

No	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
1	<p>今年から小学3年生から6年生までを対象とした英語教育が実施されるようになりました。その意味で小中一貫教育についての考え方は私は否定的ではありません。ただ、ほかの教科においては、小学校で学ぶ内容と中学校で学ぶ内容には差があり、高校入試を見据えた場合、まだ時期尚早であると考えます。学校で学ぶべき内容は英語だけではないのですから、行政としてそうした試みを検討することはよいことですが、実現に向けた取り組みとしては、まだ早すぎます。私も塾で英語を教えています。文法の定着というのは、中学生でもなかなか容易なものではありません。より静態的な議論が必要かと思いません。</p>	<p>江別市では、小中一貫教育の目的を「小学校と中学校が学習指導や生徒指導の課題や情報を共有し、義務教育の9年間において系統性と発達段階に応じた連続性を確保した指導に取り組む。」こととしております。</p> <p>江別市が目指す小中一貫教育では、現行の教育制度（6・3制）を基本とするため、今後も小学校、中学校の各段階において、それぞれが責任を持って教育活動を行うことには変わりはありません。</p> <p>その上で、英語を含む教科指導については、それぞれの中学校区の小・中の教職員が連携して、義務教育9年間を見通した計画的、継続的な教育課程を編成し、その学年で身に付ける学習内容に対して、よりきめ細やかな指導を行ってまいります。</p>	C
2	<p>「小中一貫校」構想には、心配な点がいくつかあります。</p> <p>今、子どもの教育問題で少人数学級の必要性が子どもの成長・発達にとって特別にその必要性が議論されています。「江別市小中一貫教育基本方針」では、この少人数学級の対応についての方針がわかりにくいです。</p> <p>基本方針2の(5)(6)で分析されている社会環境の変化に対応するための必要性については理解ができます。一方3の(1)期待される成果、(2)考えられる課題の点では、いわゆる中一ギャップの緩和、中学校への進学に不安を覚える児童の減少及び教員の指導方法の改善意欲の高まりを成果として挙げている一方で、小中学校の教職員間での打ち合わせ時間の確保や、合同の研修時間の確保に課題があるとされております。</p> <p>できれば余裕が持てる教職員の確保などを含め課題解決の方策を明確にする必要があると思えます。</p> <p>豊幌小学校は、「施設分離型」の計画ですが、江陽中まで6kmを超え、現在子ども達はスクールバスで通学していますが(2)考えられる課題の①を除くすべてが問題となります。</p>	<p>少人数学級や教職員定数の改善については、本方針には盛り込んでおりませんが、小中一貫教育とは別の視点で、教育に関わる重要な案件と捉えており、国の動向などを注視してまいります。</p> <p>江別市が目指す小中一貫教育では、現行の教育制度（6・3制）を基本とするため、今後も小学校、中学校の各段階において、それぞれが責任を持って教育活動を行うこととしており、小学校高学年としての位置付けは今までと変わりません。</p> <p>また、小中一貫教育のねらいは、小学校と中学校が学習指導や生徒指導の課題や情報を共有して行うことであり、中学校の生徒指導をそのまま小学校に持ち込むことはしません。</p> <p>施設についても既存の校舎をそのまま活用し、第二中学校区以外は施設分離型となるため、小中一貫教育の導入後も校区の小学校から中学校に進学するという流れは変わりません。</p> <p>これまで進めてきた小中連携教育を一步進めて、期待される効果を実現してまいります。</p> <p>地域との連携については、小中一貫教育の方向性として、えべつ型コミュニティスクールとの連携など、地域とともにある学校づくりを</p>	C

	<p>子どもの長時間通学、いざという時の安全面の不安など心配な面がたくさんあります。</p> <p>また、小学校高学年の自覚などこれまでであった子どもの成長に有益なものが失われる、中学のテスト体制や厳しい管理が小学校に拡大するなど多くの問題をかかえていると聞いています。</p> <p>豊幌小学校の場合は1クラスが12人～20人規模の生徒数ではありますが、特殊学級を含め子ども一人ひとりに目が行き届き、生徒の立場で対応する学校の姿勢に感心していますが少人数学級でこそできる優れた面であり、その在り方が、地域行事の参加などを通じて、地域の維持と発展にとってもかけがえのない役割となっています。</p> <p>豊幌小学校の「小中一貫校」の将来展望すると、豊幌小学校を江別市内の小学校と統廃合してマンモス化した学校に子どもたちを送り出すのか、豊幌に新たに中学校を創設し地域づくりを進める取組みになるのか、が問われます。</p> <p>私たちの次世代の学校の在り方を検討するためには、地域の人々と一体となった取組を進めるために地域のあらゆる経営資源を効率的に活用したり、「地域とともにある学校」についても並行的に検討することが必要であると思います。</p> <p>地域と学校の連携は、未来を創り出す子供たちの成長のため、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、地域社会が全体で取り組む方策を検討すべだと考えます。</p> <p>こうした取組を一層効果的かつ効率的に進めるためには、学校において地域との連携・協働の推進の中核を担う担当教職員の配置を図るとともに、地域側においても、学校や地域住民等の連絡・企画調整を担う専任者の配置等を促進することが必要ではないでしょうか。</p>	<p>推進することとしており、引き続き地域との連携についても取組を進めてまいります。</p>	
3	<p>行政として方針に関する事前説明が少なくとも保護者に対して行われていないことは、市民に対するわかりやすい情報提供という点においても不十分であり、問題です。</p> <p>行政（教育委員会）側の一方的な説明でしかなく、パブリックコメントを行う前に少なくとも保護者・子どもたちにも説明すべきだと考えます。</p>	<p>小中一貫教育の導入については、平成31年3月に策定した「第2期江別市学校教育基本計画」の基本政策「学校段階間の連携の推進」に基づいて、進めているものです。</p> <p>本方針は、小中一貫教育の導入のための準備を進めるため、基本的な考え方を整理することを目的に策定するものであり、方針策定後、導入に向けた取組を進める中で方針に基づく内容等について周知を行ってまいります。</p>	B

4	<p>これらを進めるにあたって、いつ・どこで・どのように子どもたちの意見を聞く場が作られ、反映されていくのか示していただきたいです。子どもたちの意見を表明する場を作るべきです。</p>	<p>本方針に基づき、各中学校区における具体的な取組について、各学校において保護者や児童生徒の意見も踏まえながら、小中一貫教育を進めてまいります。</p>	B
5	<p>方針では、期待される効果と課題が示されていますが、考えられる課題では、学校教員側のことばかりで、子どもたちにとってどのようになっているのか（一中学校に対して複数小学校であることなど）デメリットはあるのかなどよく理解できません。 施設隣接型、施設分離型、施設一体型の違いやそれぞれの特性もよく理解できません。</p>	<p>小中一貫教育の導入は、これまで進めてきた小中連携教育を一步進めて、期待される効果の実現を目指すものであり、江別市の児童生徒に対するデメリットは無いと考えております。 施設隣接型、施設分離型、施設一体型の違いは、小中の校舎の位置関係によるものであり、文部科学省では、義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校のいずれにおいても、施設形態にかかわらず設置可能としています。</p>	B
6	<p>導入後、むしろ教員の多忙化が推測されます。</p>	<p>小中一貫教育を導入する際には、新たな業務が増えることにより教職員の多忙感・負担感が生じることは課題と考えております。 教職員のみならず、円滑な導入や取組の推進について、市教委や管理職が中心となって、小中一貫教育として取り組んでいるそれぞれの活動について、どういった意義があるのか、改善点はないかなど、教職員全体の意識の共有を図るとともに、それぞれの教職員の持ち味を一層活かせるよう学校運営の工夫を図りながら、取組を進めていくことが重要であると考えています。</p>	B
7	<p>そもそも中1ギャップを問題視することに疑問を感じます。不登校児童生徒にとってどのような影響があるのかについても丁寧に検討していくべきです。</p>	<p>文部科学省は、児童が小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、いわゆる中1ギャップによる、不登校生徒数やいじめ認知件数が増加すること等について対策が必要であると示しています。 小中一貫教育を導入することにより、小学校から中学校へ環境の急激変化を緩和し、児童生徒がストレスを感じることなく、中学校生活に円滑に馴染んでいくことを目指します。</p>	B
8	<p>そもそもそういう議論がなされていたことすら知らず、人づてに聞いて驚きました。周知不足の感が否めません。 教育制度の変更は、子どもの毎日の生活（＝成長）にまで関わります。拙速に結論を出すことなく、市民に向けた説明会や勉強会などを早い段階から行うなど、十分な情報提供と広い議論を希望します。</p>	<p>小中一貫教育の導入については、平成31年3月に策定した「第2期江別市学校教育基本計画」の基本政策「学校段階間の連携の推進」に基づいて、進めているものです。 本方針は、小中一貫教育の導入のための準備を進めるため、基本的な考え方を整理することを目的に策定するものであり、方針策定後、導入に向けた取組を進める中で方針に基づく内容等について周知を行ってまいります。</p>	B

9	<p>メリット、デメリット、そもそもなんのため???が一般の保護者には説明が少ないと思います。どういうものなのか、まずは、説明文をだして欲しいです。</p>	<p>小中一貫教育については、本方針に記載のとおり、平成27年の学校教育法等の改正により制度化されたものであり、全国的に導入が進んでおります。それにより学習上の効果（学習習慣の定着）や生徒指導上の効果（中1ギャップの緩和）など導入により期待される効果の実現を目指すものです。</p> <p>本方針は、小中一貫教育の導入のための準備を進めるため、基本的な考え方を整理することを目的に策定するものであり、方針策定後、導入に向けた取組を進める中で方針に基づく内容等について周知を行ってまいります。</p>	B
10	<p>最初に確認しておく。小中一貫教育を推進する責任主体は「江別市教育委員会」であるということですね。道の教育委員会でも国の文部科学省でもなく、まさに、江別市教育委員会であるということを確認します。</p> <p>その上で、わたしは、江別市教育委員会から「小中一貫教育を推進しなければならない」という強い意志を感じるができない。中一ギャップのことくらいしか理由がない。9年間を一貫教育にしたら教育課程が系統的になって良いって言うておりますが、ふわっとした期待はありそうですが、根拠を持った説得を市民にしようという用意はないようですね。</p> <p>もし、小中一貫の利点を求めたいなら、その理由を現在の状況のデータを見せ、小中一貫にしたらどのように変化していくかを具体的に提示して説得しようとするでしょう。しかし、その片鱗もありません。だいたい、中一ギャップで問題となった子どもは何パーセントで、それはどんな事例なのかの報告もない。実績は、年に一度の交流会くらいでして、実績はゼロではないというだけで、ゼロに限りなく近い。そして、実質的な具体像を何も示していない。</p> <p>国がすすめるGIGAスクール構想をもろ手を上げて歓迎し、ICTを推し進めるのだとっているようですが、ぼやっとした期待だけしかない。ICTで授業スタンダードを成し遂げるんですか？</p> <p>最も「非教育的」な施策ですね。授業を定型化すると、自由は死にます。ロボットができることしかできない人間を生産することになります。既存のものにない新しい発想を表現する場はなく、自分でものを考えるこどもは不登校になるでしょう。</p>	<p>小中一貫教育の導入については、平成31年3月に策定した「第2期江別市学校教育基本計画」の基本政策「学校段階間の連携の推進」に基づいて、進めているものです。</p> <p>小中一貫教育を導入することで、これまで進めてきた小中連携教育を一歩進めて、学習上の効果（学習習慣の定着）や生徒指導上の効果（中1ギャップの緩和）など、導入により期待される効果の実現を目指します。</p> <p>具体的な取組については、江別市における小中一貫教育の方向性に基づき、各中学校区の実態に合わせた取組を行ってまいります。</p> <p>また、方針策定後、導入に向けた取組を進める中で方針に基づく内容等について周知を行ってまいります。</p> <p>なお、ICT環境整備などの要望等につきましては参考とさせていただきます。</p>	B

やるべきことは、制度を引っかき回すことではなく、授業そのものを魅力的にすることです。

まず、教師は授業以外の業務から開放することです。もちろん、部活はなしです。定時で学校に来て定時で帰ることを保証することです。

次に、授業において、教師の裁量を最大限発揮できる環境を保証することです。

その上で、目指すは、子供たちが授業のテーマに夢中になることです。強制ではなく、テーマを提示したら「これはなんだ！」と興味を向けずにはいられない状態にするってことです。そのような提示を教師がいつでも教室で可能なように環境を整えることです。

これが、江別市教育委員会がやるべきことで、制度をいじることが目的化している国の方針に異議を唱え、子供たちと教師を守ることです。

なお、ICTとか言って、コンピュータやタブレットやネット環境を整備しようとしています、どう使うかについての具体的なものがほとんど見えません。私の子供たちは、学校のコンピュータ室ではまともな知識も技量も概念も得られなかったようです。聞いても何もまともなことが帰ってこない。つまり、我が家のLAN環境も私しか構築できないし、自分の使っているコンピュータのOSの入れ換え程度のこともしない。何をやって来たんだか。

わたし自身は江別市立の中学校を卒業しましたが、そこではLL教室ってのがあって、何回か利用するように言われた記憶がある。使えないものであった。

新しいものは導入すれば良いというものではない。今までできなかったがどうしてもやりたい「あれ」をするために「これ」を買って欲しいという使い手側の内からの必要がなければ、導入したものはゴミでしょう。導入してから使い方を講習会で指導してもらうなんてのは、完全に反対のやり方です。

※寄せられたご意見については、できるだけ正確に表すため、個人を特定できる箇所やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しています。